

第1文型と自動詞(1)

第1文型で用いる動詞のことを

「自動詞」

と呼びます。しかし、そもそも英語の動詞には、その動作が向かう客体があるのが自然です。動作の向かう客体を、英文では

動詞＋名詞

のつながりで表現し、“動詞＋名詞”のように動詞の後にくる名詞、つまり動作の向かう客体を、文法用語で「目的語」と呼びます。目的語を後に伴う動詞が「他動詞」です。

動詞の本来の性質から考えてもこのつながりが自然なので、**動詞の大半は他動詞であり、それが大原則だ**ということ
をまず確認しておきましょう。

一方、「自動詞」とは、

動詞の後に名詞あり

という大原則に反し、動詞だけで終わっている語のことです。

第1文型と自動詞(2)

「自動詞」というのは、文字通り、自分だけで自立している、自分だけで完結しているということです。自分の世界を中心に生きている乳幼児の行う行為、すなわち、「笑う (= smile)」、「食べる (= eat)」、「走る (= run)」…といった単語だと考えておけば、ほぼ間違いありません。

ただ、実際の運用のレベルで注意しておくべきことは、「～を…」と、「を」を使って訳せるのに自動詞である例です。その代表が、

1. ～を考える = think
2. ～を卒業する = graduate

たとえば、

1. 「将来を考える」は「を」と訳せるが、
(×) think the future ではなく、
(○) think *about* the future
2. 「この大学を卒業する」も「を」と訳すが、
(×) graduate this university ではなく、
(○) graduate *from* this university

というように、動詞の後に前置詞 (= about, from) が必要となります。

「自動詞」「他動詞」の問題は、「を」「に」の問題である

と言い換えることもできます。